

「子ども・子育て・教育」に関して 4期目を迎えた松尾市政に質問

11月の臨時市議会において、4期目を迎えた松尾市長の所信表明がありました。



東日本大震災、インフラ老朽化による稻村ヶ崎の下水流出事故、自衛隊の援助を受けた2019年の台風、そして未だ収束しないコロナウイルスの感染拡大などの困難に直面、と振り返り、これからの中間は未来に向けた基盤づくり、持続可能なまちづくりをして行く、とのことでした。

持続可能なまちにして行くとは、どういうものかと考える時、やはり災害に強いまちづくり、安心して自分らしく暮らせるまちを共につくる共生社会のまちづくり、そして鎌倉の未来を見つめたまちづくりをして行くことだと思います。

鎌倉の未来、それは鎌倉の子ども達のことです。

私自身も市議会議員として5期目に入りましたが、これまでにも子育て・教育の諸問題について一貫して取り組んでまいりました。

例えば保育園の待機児童解消、幼児教育・保育の一部無償化。障がい児への継続した支援。小学校への警備員配置。中学校の給食などがあります。

その経験を踏まえて、今回の一般質問では、「子ども・子育て・教育」にしぼって確認させていただきました。

これらの事業が実現できれば、また新しい鎌倉に一步近づき、私のテーマ「共育のまち、鎌倉をつくろう」が進みます。

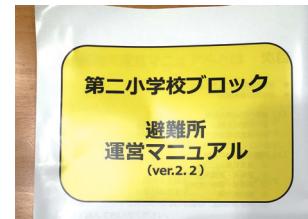


コロナ感染、また拡大の気配

昨年10月17日～11月30日まで連続45日間感染者ゼロだった鎌倉市、今年1/4までに11名の感染があった。11/29時点で全世代のワクチン2回目接種率は84.45%。3回目接種、65歳以上の方には接種日時・場所を記載した接種券を順次発送。
例) R3年6月末までに2回目の接種を終えた方には、接種券を1月上旬から発送。接種開始は2月以降の予定。

ブログ「いやさか通信」から

避難所運営マニュアル



第二小プロック自主防災委員会は、昨年各家庭用に制作した「地域防災マニュアル」に統一して、避難所の運営マニュアルを発行。避難所に常備(12/10)。

美しき夕焼け



「第3回地域共生社会推進全国サミット」をオンラインで視聴。夕空の美しさに気付き、鎌倉幼稚園前の展望広場へ。この後、皆既月食も見ました(11/7)。

前川あやこのホームページからブログ「いやさか通信」をご覧ください。

<http://www.maekawa-ayako.net>

前川あやこの活動は
ブログ「いやさか通信」
Facebook、Instagramをご覧ください。



いやさか通信



Facebook



Instagram

【発行】前川あやこ 【住所】〒248-0003 鎌倉市淨明寺2-10-8
【TEL / FAX】0467-23-0964 【E-mail】info@maekawa-ayako.net
【前川あやこ履歴】1960年鎌倉市二階堂生まれ、聖心の園幼稚園
第二小・中学校、聖園女学院、日本大学。

共育のまち、鎌倉をつくろう



宅間谷戸に建つ旧華頂の宮邸整備の日。宅間ボランティアの活動日です。秋が深まってきたが庭園にはまだバラの花。その花柄摘みの作業をしました。今年の秋は紅葉が早目、宅間谷戸でも11月初旬から始まり、近年にない美しさでした(2021.11.21)。

前川あやこ 無所属 鎌倉市議会議員5期

2005年初当選 5期目 夢みらい鎌倉
議会運営委員会副委員長
教育福祉常任委員会委員

レポート
NO.73
2022.01発行

2021年12月議会からのご報告

- 「いじめ相談」は様々な方法で
- オーガニック食品を学校給食に
- 教育行政専門職の採用について
- 不登校特例校設置への取り組み
- 市民による市民の成人教育機関



WEBサイト

討議資料

「いじめ相談」は様々な方法で

R2年度の鎌倉市における「不登校生徒の不登校の主たる要因」の数字をみると、不登校児童生徒数は233。いじめを要因とした数は小・中校いずれも0。原因がいじめではないと強く願う一方、果たしてこの数字を信じてよいのか疑問に感じます。

いじめによる深刻な報道を見るにつけ、「いじめはある」ことを前提に考えなければなりません。どのような方法があれば、強い負担を感じることなく相談ができるか?

9月議会でもオンラインによる相談を提案

今は教育センターのいじめ相談ダイヤルやウェブ相談があり、相談は増加傾向にあります。9月議会ではこれらに加えて、児童生徒が持つタブレットから、オンラインで相談できるアプリを整えて欲しいと要望。今年度内には使えるようにする、と回答がありました。一日も早い複数の手法による相談体制の整備、充実をお願いします。

オーガニック食品を学校給食に

市長の最初の任期の折(H21)、保護者の要望を受けて、私は中学校給食の実施を提案。時間がかかりましたがH29年に実施されました。今では鎌倉の中学校給食は美味しいと好評です。また同時に給食に地産地消の食材をできるだけ使って欲しいと希望しております。

市長のマニフェストには、給食食材にできる限りオーガニック農産物や地場産品を取り入れるとあります。

量が揃わない、経費もかかるが?

この導入については、SDGsの観点から環境や社会を学ぶきっかけにもなります。そのためにも地産食材、オーガニック食材で育つことは意義があります。「量が揃わないことについては、学校でわけてもいいし、地場の概念を県全体に広げる。食材費については、給食費でまかなえない部分を市で助成する」と回答がありました。

成長期の子ども達にとって大切な給食。より充実した給食になるよう期待します。

教育行政専門職の採用について

教育行政が複雑化、多様化、専門化している中、教育行政を専門に担当する一般事務職の採用が予定されています。教育現場に対する深い理解を持ちながら、鎌倉市の教育行政の立案・実施を主導する存在になります。

すでに教育企画担当が創設されているが?

この担当の創設により、学校現場の課題を行政の専門スキルを使って解決することに力を発揮しているが、今度の専門職はこれらを長期的にしっかりと担っていける人材を育てていくことにあります。プロを採用・育成していくことで、教育政策を立案する基盤が整い、新しい時代を生きる子ども達に、最適な教育環境を整えることができると期待されます。

不登校特例校設置への取り組み

昨年10、11月、不登校あるいは休みがちになっている子ども達を対象に「かまくらULTLAプログラム」として森のプログラム、海のプログラムが開催されました。子ども達自身にも保護者にも好評で、子ども達の学びの特性に着目した支援の重要性に改めて気づかされる催しました。

多様なニーズにこたえる多様な学びの場

子どもの特性に着目した支援をさらに進めていくのが、不登校特例校の設置。年間750時間程度に軽減された特別な教育課程を編成し、不登校児童生徒に対する教育を行う学校です。設置認可は文部科学大臣の指定が必要で、鎌倉市ならではの考え方のもと、実施に向けて検討していくことになります。

鎌倉には不登校になっている子どもが通う教育支援教室「ひだまり」がありますが、こちらは小中学校に在籍しながら通うなど、不登校特例校とは別のニーズに応えるもので、維持される必要があります。



市民による市民のための成人教育機関

新型コロナウイルス感染拡大を始め、不確実性が高まる社会の中で、自分を見失い、将来に希望が持てない若者も増えています。市長が提案する「鎌倉版フォルケホイスコレ事業(北欧で発展した大人のための教育機関)」は、自然や人材など、鎌倉の豊富な資源を活用し、誰もが学びたい時に学ぶことができ、自分を見つけだすことができる環境を、鎌倉に整備しようというもの。

近づいている「共育のまち、鎌倉をつくろう」

昨年の市議会6月定例会の補正予算にあった「鎌倉市若者チャレンジ事業」。対話やディスカッションを通じて、自分や他者への理解を深め、未来を考える研修プログラムで、昨年12月から今年2月まで順次開催中です。

私は子ども、児童生徒、若者から高齢者まで、共に学び、共に育つまち鎌倉をテーマとして議員活動を続けていますが、少しずつ形になる手応えを感じます。

中学生までの医療費全額助成

これまで小・中学生の医療費助成は、養育者の所得制限があったが、令和4年4/1から所得制限を廃止。自己負担額全額を助成する予定。

産後のお母さんに配食サービス

令和3年12/1以降に出産し、産後30日以内の産婦が対象。15,000円分のクーポンで配食業者の弁当注文に使える。

お問い合わせ : TEL.0467-61-3944
(市民健康課)



「おたがいさま」の食料など支援

コロナ禍において多くの方々が生活に影響を受けている。市では「鎌倉スマイルフードプロジェクト」として、食料パックや生理用品などの生活用品を無料支援。昨年11、12月に行われたが、今後も続ける予定。

食料などの寄附も受付 : TEL.0467-61-3958
(生活福祉課援護担当)